

**Operational Report FY2015**  
**The Japan Foundation for United Nations University**

**【基本方針と概況】【Basic Guidelines and Updates】**

国連大学は、1975 年の創設以来、長い間、学者の国際的共同体として、国連及び国際機関に対するシンクタンクとしての機能を果たしてきたが、2009 年 12 月の第 64 回国連総会において国連大学憲章が改正され、修士及び博士の学位授与機能が国連大学憲章に明記され、以降、名実ともに高等教育研究機関としての発展を図っている。

国連大学憲章改正の翌年 2010 年に、東京本部にあるサステナビリティと平和研究所（UNU-ISP）を基盤として、大学院「サステナビリティと平和研究科」が創設され、同大学院は 2010 年 9 月に修士課程を、2012 年 9 月に博士課程を設置した。

このような中、国連大学は、2013 年 3 月に、第 6 代学長として迎えたデイビッド・マロン学長により、発足したばかりの大学院について、より高度化した教育をめざすとともに、国際的なシンクタンクの機能を強化することを基本方針に掲げた。国連大学が国連及び国際社会が直面するグローバル・イシューの解決に貢献するような教育・研究の取り組みを重視するために、2014 年 1 月、横浜にあった「高等研究所（UNU-IAS）」と東京にあった UNU-ISP を統合し、「国連大学サステナビリティ高等研究所」（以下「新 UNU-IAS」という。）を設立し、日本における国連大学の活動をより焦点化する方向を打ち出した。従って、2015 年度における国連大学の日本国を舞台にした活動は、生まれ変わった新 UNU-IAS を中核とした活動が展開された。

新 UNU-IAS は、「持続可能な社会」、「自然資本と生物多様性」、「地球環境の変化とレジリエンス」という分野において、先進的な研究手法と学際的なアプローチを用いて、新しい地球規模課題のための独創的な解決策を生み出そうとしている。同研究所に設置された大学院「サステナビリティ学研究科」は、学際的な理解と技術スキルを備えた国際的なリーダーの育成を目指している。同研究科を修了した学生は、国連機関その他の国際機関、政府関係機関、国際 NGO 等において、地球規模課題の解決に大きく貢献することが期待される。このことから、本法人は、2010 年の大学院創設の時より、わが国の経済界と協力して同大学院の学生を支援するための奨学金制度を継続している。

新 UNU-IAS 大学院では、2015 年 7 月、国連大学大学院として初めての博士号取得者を 3 名輩出。修士号取得者はこれまでに 41 名となった。また東京大学大学院新領域創成科学研究科とのジョイント・ディプロマプログラム(2013 年スタート)において、2015 年に初めて 14 名にジョイント・ディプロマが授与された。卒業生たちは国際機関の研究プロジェクトへ参加するなど、同大学院の人材育成目標にかなった活動を始めている。同大学院の入学応募状況も定着しており、2015 年度は、修士課程は 154 名の応募があり 7 名が入学、博士課程は 112 名の応募があり 4 名が入学した。

2015 年に、国連大学は創立 40 周年を迎え、その歴史を振り返るとともに、今後、国連大学が国際社会に果たすべき役割を展望する特別シンポジウムが開催された。

本法人は、これらの国連大学の実績に鑑み、国連大学に対する我が国国民の関心を一層高め、国連大学の研究活動及び同大学院学生への奨学金支援体制の充実をはかった。このことは、本法人の公益事業の活性化を図ることを志向した本法人 2015 年度の基本方針に適うものである。

Since its establishment in 1975, the United Nations University (UNU) has been playing a role as a think tank as an international community of scholars for the United Nations (UN) and other international organizations for a long time. In December 2009, the 64th United Nations Assembly approved an amendment to the UNU Charter which explicitly authorized the university to grant and confer master's degrees and doctorates. Ever since the Charter amendment, UNU has been developing in both name and reality as an institution for research and higher education.

On the following year of the UNU Charter amendment in 2010, the United Nations University Institute of Sustainability and Peace (UNU-ISP) located in the UNU Headquarters Tokyo launched "UNU-ISP postgraduate programmes", which started MSc programme in September 2010 and Ph.D. programme in September 2012.

Under the direction of Dr. David Malone, the 6th Rector of UNU inaugurated in March 2013, UNU has aimed to enrich its higher education as well as to enhance its function as an international think tank. In order to focus on its education and research programmes contributing to solving global issues which UN and the international society have been faced with, UNU established "the United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability" (hereby referred as "the new UNU-IAS") by integrating UNU-ISP based in Tokyo and "the United Nations University Institute of Advanced Studies" (UNU-IAS) based in Yokohama. Thus, UNU indicated the direction of concentrating on the activities in Japan even more. Consequently, UNU activities in Japan in the fiscal year 2015 have centred on the new UNU-IAS.

The activities of the new UNU-IAS are in three thematic areas: "sustainable societies", "natural capital and biodiversity", and "global change and resilience". The institute applies advanced research methodologies and innovative approaches to develop creative solutions to emerging issues of global concern in these areas. "The Postgraduate Programmes in Sustainability" established in the new UNU-IAS have aimed to develop international leaders who possess interdisciplinary perspectives and skills. The graduates of "UNU-IAS postgraduate programmes" are expected to get involved in such as UN Agencies, other international institutions, governmental organizations and international NGO and contribute to the settlement of global issues. To support these students, the Japan Foundation for United Nations University (JFUNU) has administered a scholarship programme in cooperation with the private sector in Japan ever since UNU-IAS postgraduate programmes were established in 2010.

In July 2015, the new UNU-IAS awarded Ph.D. degrees to three students for the first time. 41 students have obtained master's degree from the institute up until now. Also the joint degree programmes with University of Tokyo Graduate School of Frontier Science which has started since 2013 awarded its first diploma to 14 students in the academic year 2015. They started their careers relevant to UNU mission, such as taking part in a research project at an international organization. The postgraduate programmes now receive constant applicants. In 2015, 7 out of 154 applicants were accepted to master's programme and 4 out of 112 applicants were to doctoral programme.

In 2015, UNU celebrated the 40<sup>th</sup> anniversary. UNU organised a special symposium which looked back on its history and considered what kind of role UNU should play for the global society in the future. In view of UNU's achievements, JFUNU has deepened public interest in UNU activities, as well as has supported UNU research activities and has enriched its scholarship programme. Consequently, these activities have been achieved the basic policy of JFUNU for the fiscal year 2015 which aimed to revitalize non-profitable activities of JFUNU.

## 【事業報告】【Operational Report】

### I. 寄付金募金活動 [Fund-raising Activities]

国連大学の活動は、国連大学憲章に則り、人類の生存及び発展、福祉にかかる緊急に解決を要する国際的・地球的な課題（以下、「地球規模課題」と言う。）の解決のための教育・研究及び知識普及を中心としている。国連大学は日本に本部組織を置く唯一の国連機関であり、国際貢献・国際親善の観点から日本国民にもなじみの深い国際機関である。しかしながら、国連大学の活動状況はわが国国民の間に浸透しておらず、また、国連大学の運営予算は、通常の国連予算（各国の分担金による）からの配分は全く受けず、各国政府・民間からの拠出金（任意の提供金）によって運営されている。そのため、本法人は、従前より、日本国民の国連大学に対する幅広い理解を得るための諸活動を行うとともに、国連大学に資金的支援をするための寄付金募金活動を実施してきた。（各事業の募金額は P.9 を参照）

#### 1. 国連大学大学院「サステナビリティ学研究所」奨学支援募金活動（継続事業） [Supportive Fundraising Activities for the UNU-IAS Postgraduate Programme] (On-going Mission)

国連大学は、本部（東京）施設内にある研究所を 2014 年 1 月に「国連大学サステナビリティ高等研究所」（新 UNU-IAS）として再スタートさせたが、それに伴い、そこに設置されていた大学院も「サステナビリティ学研究所」と名称変更した。この大学院は、現在、国際社会が直面している地球規模課題について、「持続可能な社会」、「自然資本と生物多様性」、「地球環境の変化とレジリエンス」という観点から、高度かつ専門的な立場で取り組む有為の人材の養成を目的としている。また、この大学院は、アフリカのガーナにある天然資源研究所（UNU-INRA）と連携してアフリカにおける教育にも力を注いでいる。さらに、2013 年より日本の有力大学である東京大学大学院新領域創成科学研究科とのジョイント・ディプロマプログラムをスタートさせるなど、日本国内の大学院との協力関係を強めている。本法人は、この大学院創設の意義に鑑み、新設当初よりこの大学院を支援し、2010 年秋に賛助会員制度による「国連大学大学院サステナビリティ学研究所奨学助成賛助会員（「jfScholarship for UNU 賛助会員）」」をスタートさせ、世界各国から集う学生、特に開発途上国の学生の修学上の支援を行ってきた。

賛助会員の募集にあたり、産業界との連携を強化し、企業団体等に広く協力を求めるとともに、一般国民からも幅広く「jfScholarship for UNU 賛助会員」への参加を呼びかけた。

2015 年度において本法人が受入れた当該寄付金額は総額 8,735,000 円（個人 14 件、法人 11 件）であった。

#### 2. 一般寄付金（継続事業） [General Grant] (On-going Mission)

従来から継続的に実施している寄付金募金活動であるが、国連大学の実施する教育研究プロジェクトへの助成及び本法人の行う広報・普及活動等への支援を目的に、任意の時期に任意の寄付金を広く国民から受け入れる募金活動である。なお、この一般寄付金においては、国連大学のサステナビリティ高等研究所の特定プロジェクトほか、寄付者の意思によって任意の事項を指定して寄付することもできる。企業団体等をはじめ一般国民にも幅広く協力を呼びかけたが、2015 年度において本法人が受入れた当該寄付金額は 10,000 円（個人 1 件）であった。

### 3. 一般賛助会費（継続事業） [Dues from Supporting Members] (On-going Mission)

この一般賛助会員制度による寄付金募金は、従来から実施しているものであるが、本法人の行う活動及び国連大学の教育研究活動全般を継続的・安定的に支援することを目的にしている。賛助会員の募集にあたっては、企業団体等をはじめ一般国民からも幅広く参加を呼びかけた。

2015年度において本法人が受入れた一般賛助会費は総額 505,000 円（個人会員 31 件、法人会員 2 件）であった。

## II. 国連大学の活動及び地球規模課題解決に係る広報・キャンペーン

### [Publicity Work and Campaign related to UNU's Activities and Solution of Global Issues]

国民の各界各層に、緊急の地球規模課題を解決することが人類の平和と発展に不可欠であることを周知させるとともに、その課題解決に取り組む国連大学及び本法人の活動に対し、幅広く理解と関心を高め、人々や企業から支持が得られるよう、広報・キャンペーンを行った。特に、高等教育機関である国連大学大学院の大学院生たちの動向を伝え、同大学院の意義や国際貢献への期待について、強力に広報活動を行った。

### 1. 広報資料の作成（継続事業） [Making public relations materials] (On-going Mission)

#### (1) ニュースレターの発行（Issuing newsletters）

国連大学の研究者や短期コース受講生へのインタビューを掲載するなど、国連大学を国民に身近に感じてもらえるよう編集内容に工夫を凝らしてきたが、さらに大学院のカリキュラム内容や大学院生の生活ぶりなど、よりいっそう具体的に教育活動の様子を国民に伝えた。

#### (2) 各種パンフレットの発行、等（Various kinds of pamphlets, etc.）

本法人の活動概要や国連大学の活動概要を分かりやすく解説したパンフレット等を製作・改定し、賛助会員や企業関係者を中心として幅広く頒布し、国連大学と本法人の活動に関わる情報提供と広報に努めた。

### 2. インターネットによるキャンペーン（継続事業）

#### [Campaigns through internet, etc.] (On-going Mission)

#### (1) ウェブサイトの拡充（Enrichment of our Website）

インターネットによる広報展開をさらに拡充し、イベント情報の積極的な告知やニュースレターの記事転載、ツイッターの活用、UNU ウェブサイトとの連携を図りながら、国連大学とその活動内容をより広範に紹介した。

#### (2) メールマガジンの配信（Delivery of the e-magazine, etc.）

賛助会員や本法人へのコンタクトを希望する人々に、イベント案内を中心に機動的な広報を展開した。

### 3. レクチャーシリーズの発刊（継続事業）

#### **[Publication of jfUNU Lecture Series] (On-going Mission)**

国連大学および本法人の活動の一端を紹介し、世界の緊急課題についてより多くの人々に知ってもらい、その解決に役立てるため、地球規模課題解決のためのシンポジウムの内容を一般の人々に解説する導入書として 2008 年以來「レクチャーシリーズ」として発刊し、2014 年度までに 9 巻を発刊した。

### 4. ロータリークラブ等での広報活動（継続事業）

#### **[Public Relations Activities at the Rotary Clubs, etc.] (On-going Mission)**

関係機関等を通じ、地域ロータリークラブ等での講演・卓話機会の獲得に努め、国連大学の活動を幅広く広報してきたが、2015 年度は本キャンペーンの受け入れ団体はなかった。

## Ⅲ. 地球規模課題解決に関する知識普及のための講演会・セミナー・シンポジウム等

### **[Lectures, Seminars, and Symposiums to Disseminate Knowledge regarding Solutions of the Global Issues]**

本法人では、緊急の地球的課題について講演会やセミナー・シンポジウムを開催し、掘り下げた議論を行うことにより、国民各界各層に国連大学の取り組む地球規模課題についての知識の普及と理解の増進を図り、広く全国各地の若年層の研修機会を図るため、単独又は国連大学と共催で、人類の生存や福祉、発展に関わる地球規模課題解決のための講演会やシンポジウム・セミナーなどを開催してきたが、2015 年度では、本法人独自の事業としては開催しなかった。

2015 年度は国連大学が創立 40 周年を迎え、国連大学において関連シンポジウムを数多く開催したが、本法人は「国連大学特別シンポジウム～持続可能な開発のための 2030 アジェンダの実施に向けて」の開催を協力・後援した。

## Ⅳ. 国連大学への助成活動 [Support Activities for United Nations University]

国連大学の主たる活動は、緊急の地球的課題解決を図ることを目的として、研究所を主体として進める研究活動と大学院または短期講座における教育活動である。この事業では、国連大学の研究活動及び教育活動の推進が、人類の発展と平和に重要な貢献を果たす観点から、国連大学の研究活動及び教育活動並びに教育研究環境整備に対して助成を行ってきたものである。国連大学への助成に当たっては、国連大学が真に必要なとする分野の活動について、事前に国連大学関係者との連絡調整のもとに助成対象事業などを検討するとともに、具体的助成事業の選定・助成額配分などについては、本法人の「助成諮問委員会」の十分な審議を経て行った。（各事業への助成額は P.9 を参照）

## 1. 研究活動への助成 [Support for UNU Research Activities]

国連大学の研究活動は、緊急の地球的課題解決のために、世界的なネットワークによって実施され、その成果は国連機関や世界の関係者等に対し、提言や解決方法を提示して還元される。この事業は、このような国連大学の研究活動の重要性に鑑み、それらの研究活動への助成を行ってきたが、2015 度においては、例年実施されてきた「アジアにおける残留性有機汚染物質のモニタリングと管理」の研究活動が次年度に延期されたため、研究活動への助成は行わなかった。

## 2. 教育活動への助成 [Support for UNU Educational Activities]

国連大学の教育活動は、緊急で世界的・地球規模課題の解決に従事するための高度かつ専門的な若き人材の育成を目的とする大学院レベルの教育である。学生たちは、これら国連大学の行う教育課程を修了後、それぞれの専門を生かして、世界の緊急課題の現場や学術機関において即戦力として貢献することが期待される。本法人では、このことの重要性に鑑み、大学院サステナビリティ学研究科の学生の修学を支援するための助成と、従来より国連大学本部において実施されている短期研修事業への助成を行った。

### (1) UNU-IAS 大学院「サステナビリティ学研究科」の学生奨学経費助成（継続事業） [Scholarship Grants for UNU-IAS Postgraduate Programmes] (On-going Mission)

(On-going Mission)

この助成事業は、正規の学位授与機能（修士・博士）をもつ大学院研究科の学生たちが、長い場合には5年以上にわたり日本に滞在しながら、学位論文作成のための勉学と研究活動に専念できるような生活環境を提供することを目的としている。助成の内容は、学生の生活費を中心とした補助である。特に開発途上国からの学生への支援を重視する。2015 年度は「jifScholarship for UNU 賛助会員」制度に基づく賛助会員企業からの寄付金を中心に、修士課程の学生5名、博士課程の学生5名の合計10名に奨学助成を行った。

### (2) UNU-IAS の実施する短期研修への助成 [Support for Short-term Seminar by UNU-IAS]

国連大学グローバル・セミナー（継続事業）

[UNU Global Seminars] (On-going Mission)

国連大学が行っている研修事業のうちもっとも歴史が長く、多くの修了生が国連や国際機関、教育機関に従事している実績を持つ事業である。短期研修（4日間）であるが、毎年、幅広い観点から、国際平和と環境・開発の問題を取り上げてきた。また、同セミナーには、日本の若者も多く参加することから、本法人としては、従前より強力に支援してきた。2015 年度も継続して助成した。

### 3. 国連大学の教育研究環境整備のための助成

#### **[Support for Maintenance of UNU Educational and Research Environment]**

国連大学の学生や研究者等が、安心して学習・研究に専念できる環境を維持することが、人類の生存や福祉、発展に関する緊急で地球的な課題の解決を推進する上で重要であることに鑑み、国連大学の教育・研究活動上の環境整備に対して助成した。

#### (1) 国連大学本部における教育研究のための施設整備費（継続事業）

##### **[Maintenance of UNU Educational and Research Facilities] (On-Going Mission)**

#### (2) 国連大学図書館の蔵書購入費（継続事業）

##### **[Purchasing Books for UNU Library] (On-Going Mission)**

### V. 地球課題解決のための研究及び社会の取り組みについての調査・研究

#### **[Inquiry/Study related to Researches and Social Efforts to Settle the Global Issues]**

2015年度は、前年度に引き続き、我が国社会におけるサステナビリティに関する取り組み及びサステナビリティ・サイエンスに係る取り組み状況について、資料収集を行った。

### VI. 国際相互理解の促進等に関する事業

#### **[Missions related to Promotion of International and Mutual Understanding]**

緊急で地球規模課題の解決には、それを醸成する国際相互理解の促進がなされていることが不可欠である。本法人が国連大学の諸活動を支援・協力するにあたっては、国連大学本部が日本国に設置されていることの強みを活かし、国連大学の諸活動に参加する世界各国の人々に、日本理解を含む国際相互理解の促進に資する機会を提供する事業を行った。

#### (1) 国際情報交流事業（継続事業） **[Missions of Global Information Exchange] (On-going Mission)**

国連大学の研修事業は30年の歴史を持ち、この間多様な研修活動を展開し、修了生たちは、国連機関・国際機関・国際NGO・大学での研究活動など、緊急で地球規模課題の解決を必要とする現場で活動している。これらの修了生たちは、国連大学での教育期間終了後も、それぞれが関わっている課題の情報交流の機会を欲している。本法人では、1999年度以来、これらの修了生たちに賛助会員等日本人学生や学識者との国際情報交流の機会を提供してきたが、2015年度は行わなかった。

#### (2) 日本文化体験事業（継続事業）

##### **[Mission of Japanese Culture Experience] (On-going Mission)**

国連大学本部において開催される各種研修会や新設の大学院には、世界各国から学生が参集する。これらの学生たちに、研修・教育のための在日期間中に日本文化や日本の社会についての理解を深め、国際相互理解の促進に資するための事業である。

- ① UNU-IASの大学院生とフェローを対象として、日本文化に接する機会を提供するプログラムとして、2015年3月歌舞伎鑑賞会「梅雨小袖昔八丈ー髪結新三ー（つゆこそでむかしはちじょうーかみゆいしんざー）」を開催した。
- ② UNU-IASの大学院生とフェローを対象として、日本の先端企業の見学など日本の経済産業活動に直に接する機会として、2015年6月トヨタ自動車元町工場の見学プログラムを、12月に住友化学筑波開発研究所および産業技術総合研究所の見学プログラムを企画・実施した。

## VII. 本法人の管理運営活動 [Management and Operational Activities of jfUNU]

公益財団法人への移行後、丸5年経過し、本法人の諸活動は、公益目的事業・法人管理運営事業ともに、事業活動の定着化を見ている。法人の管理運営体制については、評議員会・理事会・常任理事会・公益事業に関する委員会・執行理事の権限などの役割分担を明確にし、公益法人としての社会的責任を果たしているところである。

なお、国連大学が創立40周年を迎える本年度は、本法人にとっても創立30周年にあたることから、本法人の設立趣旨に照らして、なお一層国連大学の発展に資するよう、諸活動の充実を図った。その際、次の点について、前年度に引き続き特に意を用いた。

- ① 公益法人における、区分会計処理の徹底
- ② 公益法人における、公益目的保有財産管理の適正化
- ③ 基本財産及び特定基金等の資産運営の適正化

なお、社会の経済活動の低迷状況を反映し、寄付金募金活動はなお厳しい状況が続いている。

＜公益財団法人国連大学協力会 2015 年度事業報告 附属明細書＞

2015 年度 寄付金収入及び国連大学への助成実績一覧

＜FY2015 Operational Report Annex＞

寄 付 金 収 入 (Donations and Dues)		金 額(¥)
国連大学大学院「サステイナビリティ学研究科」支援募金 (指定寄付)	個人会員 14 人 14 件 (¥235,000) 法人会員 11 法人 11 件 (五十音順) (¥8,500,000) アメリカンファミリー生命保険会社 (¥500,000) キッコーマン株式会社 (¥500,000) 昭和シェル石油株式会社 (¥500,000) 住友化学株式会社 (¥2,000,000) トヨタ自動車株式会社 (¥2,000,000) 東レ株式会社 (¥500,000) 日本電子株式会社 (¥500,000) 株式会社三井住友銀行 (¥500,000) 株式会社三菱東京 UFJ 銀行 (¥500,000) 株式会社リコー (¥500,000) YKK 株式会社 (¥500,000)	8,735,000 円
一般募金	本法人への寄付 個人 1 人 1 件 (¥10,000)	10,000 円
一般賛助会費	個人会員 31 人 31 件 (¥305,000) 法人会員 2 法人 2 件 (五十音順) (¥200,000) 有限会社国大協サービス (¥100,000) 栄通信工業株式会社 (¥100,000)	505,000 円
合計額 :		9,250,000 円

以上

国 連 大 学 へ の 助 成 (Grant-in-aids for UNU)		金 額 (¥)
・ UNU-IAS 大学院「サステイナビリティ学研究科」の学生奨学経費助成 UNU-IAS Scholarship Grants for UNU-IAS Postgraduate Programmes		18,000,000 円
・ UNU-IAS: 国連大学グローバル・セミナー湘南セッションに対する助成 UNU Global Seminars - Shonan Session		620,000 円
・ 国連大学本部における教育研究のための施設整備費 Maintenance of UNU Centre Facilities		5,000,000 円
・ 国連大学図書館の蔵書購入費 UNU Library Book Procurement Fund		50,000 円
合計額 :		23,670,000 円